

# 重度障害者に対する訪問型生涯学習に取り組む団体一覧

2020年4月18日

重度障害者・生涯学習ネットワーク調べ

事業名称	訪問カレッジ@希林館 (東京都・小平市)	訪問大学おおきなき (東京都・大田区)	訪問カレッジEnjoyかながわ (神奈川県・横浜市)
実施母体	NPO法人地域ケアさばーと研究所	NPO法人訪問大学おおきなき (「訪問大学おおきなき」→2019年4月NPO法人を取得)	NPO法人フュージョンコムかながわ・県肢体不自由児協会
事業の発足	2012年9月 肺炎で気管切開をした一人の女性がきっかけ。学生6名でスタート。	2014年4月1日 学生2名でスタート(外部講師3名)	2019年4月発足。特別支援学校高等部訪問教育部門卒業生の卒後の学び場の確保の願いに応えようと、学生2名(病院1、在宅1)でスタート。
事業形態	前期(4~7月)、後期(9~2月)の単年度。 訪問は月1~4回(週1回)。1回2時間 原則、希望者には自分で学習支援員を探してきてもらう。 学生証あり。入学式あり。修了証あり。	入学から卒業までの4年制。1年ごとに進級し、4年間で卒業の達成感を味わえるようにする。その後は生涯学習コースへ。 訪問は月1~3回 1回2時間 修了証あり。卒業式あり。	訪問期間は4月~3月の単年度 訪問月1~4回(週1回)2時間。学生1名に2~3名の支援員チームをつくり、複数での訪問も実施。 学生証、入学式、修了証あり。
対象	原則として東京都多摩地区に住み、障がいや病気のために通所施設等の毎日の利用が難しい18歳以上の方で、学習支援員の派遣を希望している方。 在宅の方が対象だが、場合によっては入所施設の方も。	○大田区近辺に在住の18歳以上の方。 ○身体に障がいがあり、毎日の通所施設等の利用が難しい方。 ○学習の機会を通して社会参加を希望される方。 ※上記の条件を満たしていても、入学が本人の自己実現のためにふさわしいと事務局が判断した方。	原則として神奈川県に住み、障害や病気のために通所施設等の毎日の利用が難しい方で、学習支援員の派遣を希望している方。
利用者(学生数)	21名(2020年4月現在) 訪問先・・・家庭14名、病院1名、入所施設6名	9名 ○1~4年生・・・5名 ○生涯学習コース・・・4名	5名(2020年度4月現在) 訪問先・・・家庭3名 入院先1名、通院先1名
どんな医療的ケアが必要な方か	気管切開14名、人工呼吸器13名、吸引16名、酸素療法10名、経鼻経管栄養10名、胃ろう7名、人工肛門1名 など	気管切開7名、人工呼吸器5名、吸引6名、酸素療法5名、経鼻経管栄養0名、胃ろう7名など	気管切開5名、人工呼吸器3名、吸引5名、胃ろう4名、IVH1名、など
スタッフ	学習支援員20名 2カ月に1回会合	講師7名(年に1回講師連絡会)	学習支援員8名(元特別支援学校教員)スーパーバイザー1名(大学教授) 4か月に1回会合
学習内容(例)	体の取り組み(マッサージ・体操)／音楽・音楽鑑賞、VOCAやiPadを使った音楽(作曲・演奏)／意思伝達装置(レッツチャット、マイクビーなど)の活用／本の読み聞かせ／美術制作／俳句作り／英語 など	・国語(絵本の読み聞かせ等)・俳句を基礎から学ぶ／音楽・音楽療法／英語／創作・絵画・調理／体の取り組み／視線入力装置やOAK・iPadを使った授業／社会体験やコミュニケーション など	体の取り組み(マッサージ・体操)／読み聞かせ／音楽・音楽療法／創作・絵画・調理／iPadを使った授業／社会体験やコミュニケーションなど
学費	授業料1万円(年間)	★入学金 2,000円、学費(正会員3,000円/年) ★授業料 授業1回1,500円。(生涯学習コースは2,000円)教材費は実費自己負担。	受講料5,000円(年間)
運営	都立特別支援学校外部指導員(外部専門家)(5名)の報酬費の一部を充当。 実施母体で支援者育成等の研修事業等を実施。	正会員(年3000円)／賛助会員(一口1000円)／企業団体会員(一口5000円)、特別支援学校等の講師料等も充当	ボランティアを基本に運営。令和2年度はボランティア活動補助金の交付を受けた。
報酬	交通費・謝金を支給	交通費・謝金を支給	交通費のみ支給
事業の成果	・訪問型の生涯学習ニーズを顕在化させることができ、都立特別支援学校在籍生徒の進路先の一つとして認知されるようになってきた。 ・学生の学びを重症心身障害児(者)を守る機会誌「両親の集い」や(株)アローウィン制作のDVDなどで紹介できた。 ・学生の学びによる作品(創作童話集、ホームページ、作曲、絵、小物など)を発表してきた。	・学ぶ喜びを感じ取り、生きがいを支える時間の1つとして授業を受け止めている学生、ご家族に支えられている。 ・事業を理解し、支援して下さる会員数が徐々に増加している。 ・学生や会員等の地域でも障害の重い方の生涯学習の場を作りたいという声が出ていて、情報提供をするようになった。 ・学生の作品や演奏を文化祭やブログ、YouTubeで発表するようになった。	・県立特別支援学校の訪問教育研修会に参加し、訪問カレッジの紹介ができた。進路担当の間合せも2~3件受けた。 ・かながわボランティア活動推進基金21に事業申請し、生涯学習の訪問サービス事業の必要性について啓発することができた。 ・特別支援学校との連携として卒後のアフターフォローや移行支援会議への参加などの支援を受けることができた。
当面の課題・今後に向けた課題	①生涯学習のニーズと希望者の増加に対応できるような学習支援員の体制と財政的基盤の強化。 ②学習支援員を守る手立てとして現在、賠償保険に加入しているが、公的な事業ではないため、対象となる保険は限られている。	①授業回数が月1~3回に限られている。 ②学生の希望通りの教科・内容の授業を自由に選択できるだけの講師がそろってはいない。 ③障害の重い方とコミュニケーションをとり、主体的な活動を引き出せる力量のある講師を探すことが難しい。 ④学生・講師の身を守る安価で適当な保険が見つからない。	①生涯学習のニーズは高いが、それに対応できる学習支援員の確保・体制づくりに苦慮している。財政的な脆弱さに加え、視線入力等の機材やスキルを持った人材の確保・養成が難しい。 ②令和2年度から教員養成大学ゼミ学生と訪問するインターシップを開始する。両学生にとって効用のある事業に発展させたい。 ③神奈川全域が対象なので、規模の拡大が事業の質の低下を招く不安がある。
連絡先	NPO法人地域ケアさばーと研究所 理事長:飯野順子 訪問カレッジ@希林館 学長:下川和洋 事務所:〒187-0035 東京都小平市小川西町4-34-2 電話・FAX:042-403-3229 Email: ccsupport@jcom.home.ne.jp HP: http://mcare.life.coocan.jp/mae/	NPO法人訪問大学おおきなき 理事長:相澤純一 事務局:田中千加子 事務局:〒146-0092 東京都大田区下丸子4-18-12 電話:080-5408-3391 FAX:03-3758-3391 Email: taiju06wa01@b07.itscom.net HP: http://home.v07.itscom.net/ookinaki/ ブログ: http://blog.livedoor.jp/ookinaki_koramu/	NPO法人フュージョンコムかながわ・県肢体不自由児協会 理事長:成田裕子 事務所:〒221-0844 神奈川県横浜市神奈川区沢渡4-2 電話:045-311-8742 FAX:045-324-8985 Email: jimukyoku@kenshikyoku.jp HP: http://kenshikyoku.jp

# 重度障害者に対する訪問型生涯学習に取り組む団体一覧

2020年4月18日  
 重度障害者・生涯学習ネットワーク調べ

事業名称	訪問療育いるか (東京都・杉並区)	在宅訪問学習支援事業「学びサポート」 (東京都・杉並区)	ひまわりHome College (東京都・新宿区)
実施母体	NOP法人かすみ草	認定NPO 法人スマイリングホスピタルジャパン	NPO法人ひまわりProject Team
事業の発足	都立八王子小児病院のポストNICU児が、重い障害と医ケアの為、通園に通うことが困難で療育を受ける機会を得られていなかった。2011年12月より未就学児3名をモデルケースとして訪問療育を開始。スタッフは3名。	2018年4月に、東京都立永福学園肢体不自由教育部門高等部卒業生2名、学習支援ボランティア1名によりスタートした。発当初から、本人が学びたい内容を、学習環境と一緒に工夫しながら個別的でゆったりとした学び合いの実現を目指している。学習支援ボランティア(現職教員)が高等部時代に担任をしていた卒業生を対象に始めたが、現在は在校生や就学前の方も利用している。	新宿区立新宿養護学校の保護者が、重症心身障害児者の自立支援を目的としたNPO法人を設立。医療的ケアの必要な我が子の高等部卒業後の進路の選択肢の少なさを危惧し、2013年4月より生涯学習支援事業を開始する。
事業形態	開始時より就学または通園に繋がるまで実施。訪問回数は利用者の状況により決定。	一人につき月一回、1回2時間程度。学習支援ボランティア1名が利用者宅を訪問する。	1人月1回 1回2時間程度 (利用者の希望に対応可) 学習内容により発表会あり
対象	原則として、障害や病気、家庭の事情などにより地域の通園に通うことが困難な未就学児。東京都または近県在住者(訪問員が自宅より一時間以内で通える範囲)。	原則として杉並区、中野区在住の方で、運動や感覚等の制約があり、通常的环境下では学習することが困難な方。学習支援ボランティアが担任をしていたなど、事前にご本人、保護者ともに信頼関係がある程度構築されているケースが多い。	新宿区在住もしくは近隣の特別支援学校高等部卒業後の重症心身障害者(通所施設との併用可)
利用者(学生数)	13名(2名は成人、うち1名は入院)(2020年4月現在)	7名(就学前1名、特別支援学校中学部2名、卒業生4名)(2020年4月現在)	1名(卒業生1名)(2020年4月現在)
どんな医療的ケアが必要な方か	人工呼吸器(11名)、酸素療法、吸引、胃ろう・腸ろう、経鼻経管栄養、インスリンポンプ、医ケアは必要ないが重い心臓病で外出禁止	気管切開1名、人工呼吸器1名、吸引4名、酸素療法1名、経鼻経管栄養0名、胃ろう1名、血糖値測定及びインスリン投与1名	・吸引・吸入・胃ろう・呼吸器・導尿
スタッフ	訪問支援員(元特別支援学校教員)6名、PT1名	5名(特別支援学校教員2名、音楽・美術系プロのアーティスト2名、言語聴覚士1名)	講師2名
学習内容(例)	体の取り組み、感覚遊び、音楽、本の読み聞かせ、素材に触れる・作品作りなど個別に計画を立てて実施	・基礎学習:教科学習の土台となるもの。探索・操作、手段・目的、弁別、構成学習など ・意思伝達支援:状況把握や受信・発信手段の確保を支援する。 ・教科学習:一人一人の興味や関心にあった教科の学習を提供する。算数、国語、美術、音楽、情報など	・国語、英語、理科、音楽、美術、創作、調理、古文、身体ストレッチ ・ラテンダンス(車椅子)ラテン音楽に合わせて自由に表現する ・太極拳 気功と簡単な型を学ぶ
学費	居宅訪問型児童発達支援対象者は厚労省の定める範囲。居宅介護利用者は一回500円。自費は1時間3000円。資料代500円。入院者は自費(1時間3000円)	1回 1000円	年会費3000円 1500円/1回
運営	福祉制度を利用し、公費より収入を得ている。実施母体が交通費負担。月一回連絡会。	母体である認定NPO 法人スマイリングホスピタルジャパンが「学びサポート基金」を設置し、運営費に充てている。	賛助会員費にて運営 一口1000円
報酬	交通費・謝金を支給。	謝金(交通費込み)	1500円/1回 交通費実費
事業の成果	初めは体に触れるだけで筋緊張が強くなり、バイタルも大きく変動していた子どもが、回数を重ねるうちに安定し、遊びを受け入れ、手を動かす、追視をするなどの成長が見られてくる。 子どもの「心の窓」を開き、通園や就学に繋げる一助になっているのではないかと思います。	対象者7名に対し1人月1回の個別学習という機会を安定的に保障できている。方法さえ工夫すればできることがたくさんあり、学びを深め自分の世界を広げられるという可能性に、本人保護者ともに気づいてもらえた。 また杉並区の助成金を活用し、個別のニーズに合った物品を揃えられ、一人ひとりに合った学習環境を整備し、より適切な学習支援を行うことができた。	介護関係者以外の人と継続的に関りを持ち学ぶことで、生活の質を高める情報が増えた。さらに利用者自身が充実感を体感することで、自信を持つことができ、積極的に学ぼうとする意欲や動きを感じ取ることができた。
当面の課題・今後に向けた課題	2018年4月の児童福祉法改正に伴って、訪問療育が「居宅訪問型児童発達支援」として制度化された。しかし、2年たった今でも受け皿が整備されていないと実感している。 ①訪問員が少なくすべての依頼に応えられない。 ②事業所により活動内容のばらつきがある。 ③自治体により制度の適応内容が異なり不平等が生じている。	大きな課題は人材不足である。特別支援学校教員で自分が担任をしていた卒業生1名を月1回継続した学習支援をするという形で対象者を広げられないか模索中である。ただ、現在の特別支援学校では教員の個別的にじっくりと子どもと向き合うという経験が非常に不足しているため、1対1で子どもに教わりながら学びを支えようとする人材を見つけるのが非常に難しい。そのため、「学びサポート」の活動自体を現役教員の研修の場として活用することも考えている。	①採算が合わず大人数は受けられない。 ②一般的な学習を請け負える講師(元特別支援学校教諭等)を見つけるのが困難。 ③個人の在宅学習の他に、2~3人の小さな集団での活動を通し小さいながらも社会への帰属感を持てるようにする。 ④採算が合う運営のしくみの模索。収入源の確保。
連絡先	NPO法人かすみ草 理事長:早野節子 居宅訪問型児童発達支援事業いるか 責任者:栗山弘子 事務所:〒168-0063 東京都杉並区和泉3-22-15 グランパール101 電話:03-6265-7991 Email: kasumiso@themis.ocn.ne.jp	認定NPO 法人スマイリングホスピタルジャパン 代表理事:松本恵里 在宅訪問学習支援事業「学びサポート」 コーディネーター:松本健太郎 住所:〒168-0072 東京都杉並区高井戸東3-3-15-308 電話:080-3097-6646 Email: piyolinhn@smilinghjp.org HP: http://smilinghjp.org/ 学びサポート活動レポートブログ: http://smilinghjp.org/manabi/	NPO法人ひまわりProject Team 代表:藤原千里 電話:090-2464-6176 Email: chisato_fujiiwara@hotmail.co.jp HP: https://himawaript.wixsite.com/himawari2010/

# 重度障害者に対する訪問型生涯学習に取り組む団体一覧

2020年4月18日

重度障害者・生涯学習ネットワーク調べ

事業名称	訪問事業i.porte(あいぼると) (神奈川県・川崎市)	訪問カレッジ静岡 (静岡県)	日野市障害者訪問学級 (東京都・日野市)
実施母体	NPO法人あいけあ	静岡県障害者就労研究会	日野市障害者問題を考える会 (東京都日野市の委託)
事業の発足	2017年4月に、神奈川県立中原養護学校の訪問教育を卒業した方3名を対象に、モデルケースとして開始。同年10月にNPO法人化し、事業を継承。	2018年に、重症心身障害児・者施設「つばさ静岡」と連携してスタート。地域の方と「つばさ静岡」の利用者が参加。	1973年日野市立七生中学校の訪問学級担当であった故御子柴昭治先生を中心に「障害者問題を考える会」が発足。 1981年日野市立七生中学校の訪問学級卒業生が卒業後も学びたいと強く要望し、日野市教育委員会が「障害者問題を考える会」に運営を委託して日野市障害者訪問学級が始まった。当初は30歳までという年齢制限があった。(現在はなし)
事業形態	一人につき月1回、2時間程度。教員ボランティアを中心に2名で訪問。	年に2回、「つばさ静岡」のホールで実施する。	年間一人当たり70時間 日野市生涯学習課から委託されて、それぞれの学級生の状況に合わせて活動している。基本的には学級生の自宅に訪問するが、外出できる場合は外出援助も行っている。
対象	川崎市・横浜市在住の人。 特別支援学校在籍時に訪問教育を受けていた人で、在宅生活となっている人(通所先がないか、長期で通所できなくなっている人)	つばさ静岡まで、送迎可能な方。 主に18歳以上の方。 学習の機会の少ない方で多様な経験を望む方。	市内在住で、一人で移動が困難な方。義務教育終了後も引き続き学びたいという方。
利用者 (学生数)	3名(2020年4月現在)	毎回異なるが30名程度(特別支援学校卒業生が多い)	16名(19歳-43歳)在宅(2020年度4月現在)
どんな医療的 ケアが必要な 方か	胃ろう1名、口鼻腔内吸引1名、経鼻経管栄養2名、気管切開2名、人工呼吸器2名	気管切開、人工呼吸器等	気管切開管理4名 経鼻経管栄養、胃ろうろう含め5名。 医療的ケアとは別に、精神疾患や自閉性障害のための、適切な配慮の欠かせない方も。
スタッフ	専従スタッフ1名とサブで1名(法人理事) ボランティアスタッフは7~8名(特別支援学校の教員または元教員)	元特別支援学校教員6名、現役特別支援学校教員7名、大学生20数名	講師19名 スタッフ2名
学習内容 (例)	創作活動、簡単な調理、音楽活動、iPadやPC視線入力による新たな挑戦、やりとりを楽しむ活動	音楽(生の演奏、歌)、家庭(コーヒー、お茶)、情報(写真)、美術(書)理科(プラネタリウム)健康(アロマ・マッサージ)	絵本の読み聞かせ、水泳(プール)手芸、図工、美術、書道、身体ケア、作文、音楽鑑賞、音楽演奏、コミュニケーション支援、外気浴、郊外歩行(軽登山)ほか
学費	なし	無料	受講料は無料(ただし、委託団体の年会費は2000円を徴収)
運営	助成金及び自己資金	静岡県障害者就労研究会が、寄付金、会費で運営費に充てている。	日野市生涯学習課からの年間一人当たり70時間分の講師料と教材費(4000円)を半期ごとに受け、運用している。 運営委員会(講師・保護者・スタッフ)で2ヶ月に1度、約2時間話し合っており、行事や授業内容、講師の活用などを協議している。
報酬	交通費・活動費を支給。	なし(保険には入っている)	日野市生涯学習課からの1時間当たり2600円を支給。 交通費はない。
事業の成果	卒業後に在宅生活となり、社会との接点を持ちづらくなっていた方が、在学時のような音楽や美術などの表現活動、運動プログラム、外出や人とかわる活動を定期的に受けることができるようになった。 体調が安定した時に生活介護事業所に通所したり、仲間とかわる機会を持つことができた。	毎回、アンケート等で参加者、ボランティア等の記録をしている。継続の希望の多い事業である。楽しみにしている参加者の現れもあった。大学生の学びの場としても大変有効である。訪問カレッジ参加のための授業を静岡大学で年1回やっている。 成人の方の学びとして、内容を考えている。施設とも相談しながら進めているが、振り返りから充実してきている。	事業開始から38年間、講師も入れ替わりながら市の行政も変化しながらも事業を継続できていることが一番大きな成果といえる。「おもちゃで遊べなかったが、おもちゃをよく見てあそべるようになった。」(保護者談)「通所先で介助してもらった人を職員さんの写真の中から選ぶことができるようになった」などさまざまな報告がある。最近書道をやっている講師から講師養成講座で学級生の作品展示があり、そのような作品を市の展覧会などに出そうという話も出ている。
当面の課題・ 今後に向けた 課題	①ニーズはあるが、制度がない。そのため、資金源が不安定。 ②支援者のコーディネート。その人のことを良く知っている人が適切に人を派遣できればいいが人材不足で決まった人に頼ることになってしまう。今は現役教員がボランティアで実施している。 ③学校期からのスムーズな移行。卒業後の選択肢の一つになれるといいが…。	施設の方が大半の時もあったが、団体の多くの場で、チラシ等を配布したところ、家庭にいる地域の方の参加者増えている。医療従事者の参加で講座を行っている。他の地域での開催も検討したい。	講師の不足が最も大きい課題。現在の講師の構成としては支援学校退職者3分の1、市民の方が3分の1、障害者関連職種の方が3分の1で、若い新しい講師は増えていない。 毎年支援学校卒業生が入級してこられる中、また、講師の複数配置を実施してきているので、講師養成講座で市民に呼びかけているものの、実際の参加は少ない。 学級生の社会の一員としての活動を増やしていきたいという声が講師の中から上がっていて、作品展示であるとか市の活動への参加(ポッチャ大会など)が今後の課題。
連絡先	NPO法人あいけあ 理事長:岡安玲 住所:211-0036 川崎市中原区井田杉山町3-1 電話:090-9141-4713 Email: okayasu-66@icare-carepy.com HP: <a href="https://www.icare-carepy.com/">https://www.icare-carepy.com/</a> Facebook: <a href="https://www.facebook.com/momonpy/">https://www.facebook.com/momonpy/</a>	静岡県障害者就労研究会 担当事務局:瀬戸脇正勝 電話:090-2775-6348 Email: shizuoka.dws@gmail.com HP: <a href="http://shizuoka-dws.com/">http://shizuoka-dws.com/</a>	障害者問題を考える会 代表:名取潮子 住所:〒191-0042 日野市程久保3-10-27 電話:042-592-1517 Email: natorit@jcom.zaq.ne.jp

# 重度障害者に対する訪問型生涯学習に取り組む団体一覧

2020年4月18日  
 重度障害者・生涯学習ネットワーク調べ

事業名称	シャローム大学校 (埼玉県・和光市)	訪問カレッジ・オープンカレッジ@愛媛大学 (愛媛県・松山市)
実施母体	一般財団法人福祉教育支援協会	国立大学法人 愛媛大学
事業の発足	シャローム大学校は2018年度のプレ学習期間を経て2019年度に正式スタート。訪問型講義も同時開始し、学生2名。	文部科学省「障害者の多様な学習活動を総合的に支援するための実践研究事業」を受託し開始。2019年度の事業期間は、2019年6月7日から2020年3月10日。2年度間で申請しており、2020年度については結果待ち。
事業形態	単位制で前期4-7月、後期10-1月、それぞれ15回。1つの授業は基本50分。	○受託事業は2019年度より2年間(予定)、単年度毎に一区切り。 ○訪問面談実施後、訪問カレッジ開始。 ○月1~4回(週1回)、1回2時間程度。複数で訪問。 ○学生証あり。 ○入学式、卒業式、修了証あり(予定)。
対象	18歳以上の学びに意欲のある方。	原則、以下に該当する方。 ○四国地区在住 ○特別支援学校等を卒業後の18歳以上の方 ○重症心身障害等が理由で学習機会が無い・少ない方
利用者(学生数)	2名(2020年度)	7名(自宅4名、病院3名)
どんな医療的ケアが必要な方か	吸引2名、胃ろう2名、人工肛門2名 など	気管切開2名、人工呼吸器2名、吸引4名、酸素療法2名、経鼻経管栄養2名、胃ろう2名
スタッフ	常勤講師1人(非常勤5人程)	15名(教育学部地域連携実習生3名、その他学生2名、理学療法士1名、寄宿舎指導員1名、保育士2名、県のシニア人材活用部署からの紹介6名)
学習内容(例)	2019年度前期 講義テーマ「世界の国々」 2019年度後期講義テーマ「人類の歴史-奈良時代まで」 フィールドワーク:カナダ大使館(前期)、高畑勲展(後期)	絵本の読み聞かせ、スイッチ遊び、音楽活動(音楽鑑賞、楽器演奏)、感覚遊び、視線入力装置・iPadアプリを使った活動、動画視聴、制作活動 など
学費	2020年度までは文科省事業の一環として位置づけ無料。2021年度以降は検討中。	無償。
運営	母体の一般財団法人福祉教育支援協会が就労移行支援の福祉事業を行っている。2021年度からは教育部門を独立させる方向で準備中。	実施母体で支援者育成等の研修事業・勉強会等を実施。
報酬	外部講師には謝金	研究スタッフ・ボランティアスタッフには交通費を支給。
事業の成果	18歳以降の重度障がい者に対する訪問型講義のニーズを認知することができ、その実態を広く知らせるために、学長が各種コラムなどで発出してきた。さらに2020年2月14日は文科省との主催で「共に学び、生きる共生社会コンファレンス」を実施し、分科会で「学びのアウトリーチ」を設定し議論の広がりのきっかけを作った。	①連携協議会の実施により、先行事例の共有、需要の高い利用者の情報提供、訪問カレッジプログラムの検討 ②県のシニア人材活用部署と連携 ③松山市社会福祉協議会内にボランティアセンター設立 ④スタッフ講習会、理解啓発イベントの開催 ⑤全利用者から、次年度も実施継続希望あり
当面の課題・今後に向けた課題	福祉サービスではなく、「教育」を実践することを追究することで、経済的な不透明さがある。来年度以降はNPO化し広く市民に支援される組織として訪問型講義を展開する予定であるが、支援のネットワークが築けるかは未知数である。	①スタッフの基礎力・専門性向上 ②他県でのスタッフ募集・養成 ③訪問カレッジ学習プログラムの再検討 ④オープンカレッジの実施
連絡先	シャローム大学校 学長:引地達也 住所:〒351-0114 埼玉県和光市本町9-40-5F 電話:048-450-7055 Email: shalom-college@wess.or.jp HP: http://shalom.wess.or.jp	国立大学法人 愛媛大学 教育学部 荻田 知則 研究室室内 事務局 住所:〒790-8577 愛媛県松山市文京町3番 愛媛大学 電話・FAX:089-927-9517 Email: houmon.college@ed.college-u.ac.jp HP: https://karilab.jp/syogai_gakusyu/